

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	おかやまけんりつおかやまそうざんちゅうがっこう・こうとうがっこう						②所在都道府県	岡山県
27～31	①学校名	岡山県立岡山操山中学校・高等学校							
③対象学科名	④対象とする生徒数							⑤学校全体の規模	
	中1	中2	中3	高1	高2	高3	計	中学校	359名
普通科	120	120	119	284	276	275	1194	高校	835名 計 1,194名
⑥研究開発構想名	「和して流れず」の精神で、岡山と日本の未来を切り拓くグローバル・リーダー								
⑦研究開発の概要	本校は、創立以来、協働性と主体性を重んじる「和して流れず」の精神を継承し教育活動を行っている。「未来航路」「SOZAN 国際塾」「GLOBAL STUDIES」の3つの取組の相乗効果により、「幅広く深い教養」「課題解決能力」「コミュニケーション能力」「リーダーシップ」「社会貢献の意識」の5つの資質・能力を身に付けた、「和して流れず」の精神で、岡山と日本の未来を切り拓くグローバル・リーダーを育成する。								
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>目的 「和して流れず」の精神で、課題に果敢に挑戦し課題解決を図ることができ、岡山と日本の未来を切り拓くグローバル・リーダーを育成する。</p> <p>目標 グローバル・リーダーに必要な次の5つの資質・能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広く深い教養(グローバルな課題を理解できる国際的な素養がある) ・課題解決能力(グローバルな視点で課題を発見し、論理的に解決策を考えることができる) ・コミュニケーション能力(多様な人の考えや価値観を理解し、自分の考えを伝えることができる) ・リーダーシップ(主体性と協働性をもってチームを動かすことができる) ・社会貢献の意識(岡山・日本・世界のために貢献しようとする) <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は、平成14年度から併設型中高一貫教育校となり、総合的な学習の時間「未来航路」を特色の基軸として、中学・高校を通じて課題探究活動を行っている。平成21年度からは文科省から英語教育の拠点校に指定され4技能向上を目指して取組を推進し、生徒の英語コミュニケーション能力は高い。</p> <p>しかし、課題学習が探究活動に至らず調べ学習に終わったり、課題解決のために主体的・積極的に挑戦する姿勢や海外生徒との交流が不十分であった点に課題がある。</p> <p>平成26年度には岡山県教育委員会から指定を受け、グローバル人材に必要な資質・能力を定め、課題研究活動の充実発展、大学等と連携した教育活動、海外生徒との交流等に取り組んでいる。</p> <p>【仮説】</p> <p>中学・高校の6年間で一貫した課題探究活動「未来航路」、意欲のある生徒を対象として異学年集団で取り組む課題探究活動「SOZAN 国際塾」、教科活動において資質・能力を育む「GLOBAL STUDIES」の3つの取組を、育むべき資質・能力の育成目標を設定し推進することにより、3つの取組の相乗効果で、グローバル・リーダーに必要な「5つの資質・能力」を向上させることができる。</p> <p>このことにより、「和して流れず」の精神をもって、世界の課題に果敢に挑戦するグローバル・リーダーを育成することができる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを活用し、SGHの活動の様子や課題研究の成果を情報発信する。 ・課題研究発表会、シンポジウム、公開授業を含む教科研究大会を開催し、広く公開する。 ・SGHの研究報告書を作成し、各学校・関係組織に配付する。 							

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 研究開発単位 I 「未来航路」の課題研究 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校1年：「岡山を知ろう」をテーマに探究活動を行い新聞にまとめる。 ・中学校2年：「日本を知ろう」をテーマに探究活動を行いレポートにまとめる。 ・中学校3年：「世界を知ろう」をテーマに探究活動を行い卒業論文としてまとめる。 ・高校1年：前期は身近なグローバル課題の研究、後期は前期と連動させた対立軸をもつ課題の研究（例 前期「ヒトの動きとカネの動き」→後期「農産物輸入の自由化と保護」、前期「身の回りの正義と公正」→後期「開発と環境保全」、前期「日本・海外の教育」）→後期「受験対応と生涯学習対応の教育」）を行い、課題研究の基礎力を育成するとともに、2年次の課題研究に繋がる研究を行う。 ・高校2年：高校1年の内容を発展させて、「世界における日本の役割」を総合テーマに、ミレニアム開発目標を参考に設定した「貧困と飢餓」「紛争と平和」「教育」「健康と疾病」「貿易と開発」「持続可能な開発と環境問題」の分野別にグループで課題研究を行い、研究論文とする。 ・高校3年：高校2年の研究成果から「世界の課題解決」をテーマに、海外大学進学や留学を視野に入れた解決策の提言までを目的とした高度な課題研究を行い、英語エッセイ等にまとめる。 研究開発単位 II 「SOZAN 国際塾」の課題研究 研究開発単位「未来航路」と関係性を保ちつつ、その中でも特に「持続可能な開発と環境問題」をテーマとした課題研究を行う。その研究のためにオーストラリアでのフィールドワークも実施する。 </p> <p>(2) 実施方法・検証評価 研究開発単位 I 「未来航路」 中学校では、1年生の校外学習（岡山大学、岡山県庁、岡山商工会議所等）、2年生の京都研修（京都大学、京セラ、京都観光協会等）、3年生の東京研修（東京大、ソフトバンク、ローソン、文部科学省等）の訪問先から協力を得て研究を深化させる。 高等学校では、1年次に、討論、ディベート、発表を含んだ探究活動を行い、課題研究の基礎力や論理的思考力を身に付ける学習を行う。2年次では、岡山大学・大学院や企業等と連携するとともに、ティーチングアシスタントの指導による本格的な課題研究を行い、課題研究発表会・シンポジウムを実施する。3年次には、海外大学進学や留学を視野に入れた、高度な課題研究を行い英語エッセイにまとめる。 研究開発単位 II 「SOZAN 国際塾」 オーストラリアやマレーシアの高校・大学や岡山大学・地元企業と連携し、特にオーストラリアでフィールドワークが可能な「持続可能な開発と環境問題」をテーマとした課題研究を行い、その成果を海外で発表したり、TED や全日本高校模擬国連等で研究を深化させたりする。また、中学・高校のそれぞれで海外研修を行い、異学年集団での探究活動を行う。 検証・評価については、「5つの資質・能力」を観点としたルーブリックによる評価やアンケート、課題研究の成果物等により生徒・教員・学校の変容等を把握し評価・検証を行う。 </p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 教科「情報」科目「社会と情報」を1単位に減じ、学習内容は「総合的な学習の時間」で実施する。高校3年次の「総合的な学習の時間」は選択履修とする。 </p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 研究開発単位 III 「GLOBAL STUDIES」 課題研究による「5つの資質・能力」の育成を支えるために、教科単位におけるグローバル・リーダーに必要な「5つの資質・能力」を観点とした教科目標を設定する。アクティブラーニング等を取り入れた授業を行うことで、教科活動からもグローバル・リーダーに必要な資質・能力の向上を目指す。さらに、文部科学省や岡山県教育委員会から研究指定をうけて研究開発した学校独自の CAN-DO リスト(SACLA)に基づいた授業改善により、海外の高校生と対等に交流ができるだけの英語コミュニケーション能力を育成する。この英語力については、「GTEC for STUDENTS」を定期的に受験し検証する。 </p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし。 </p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ・高校2年でシンガポール・マレーシアへの修学旅行を実施する。 ・中学3年で英語のみで生活する「イングリッシュ・サマー・キャンプ」を実施する。 </p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>スーパーグローバル大学に指定されている岡山大学と強力で連携してプログラムを推進する。</p>

ふりがな	おかやまけんりつおかやまそうざんちゅうがっこう・こうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	岡山県立岡山操山中学校・高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	1200人
	SGH対象生徒以外:	920人	950人	人	人	人	人	人	0人
目標設定の考え方: 社会貢献活動への参加者数により算出し、中学・高校生全員が取り組むことを目指す。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:	15人	41人	人	人	人	人	人	0人
目標設定の考え方: SGH事業での海外研修とそれ以外で留学する中学・高校生の数により算出し、増加を目指す。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:	25%	51%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 学校自己評価アンケートにおける生徒の意識調査の数値より算出し、70%を目指す。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	4人	5人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 全国中学高校ディベート選手権、全国高等学校英語スピーチコンテスト等の実績をもとに算出し、倍増を目指す。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベル(英検2級～準1級・TOEFL57点程度以上)の生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	65%
	SGH対象生徒以外:	57%	57%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 全員受験しているGTECのGRADE5(高校上級レベル)以上の数により算出し、高校3年生時に、H25で162人H26で160人であることから、180人以上を目指す。									
(その他本構想における取組の達成目標)「未来航路」のねらいを理解し、前向きに取り組んでいる生徒の割合									
f	SGH対象生徒:								80%
	SGH対象生徒以外:	—	69%						
目標設定の考え方: H26年度の意識調査での割合は69%であり、課題探究活動「未来航路」に積極的に取り組む生徒を増加させる。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
文部科学省が支援する国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	45%
	SGH対象生徒以外:	31%	35%	%	%	%	%	%	
目標設定の考え方: スーパーグローバル大学に進学する人数により算出し、1割の増加を目指す。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	3人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 現在はいないが、最終年度は3人を目指す。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 課題研究により学ぶ意義や進路意識が向上することが期待できるので、ほとんどの生徒が該当すると考えられる。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	50人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 1学年280人における人数により算出し、SGH事業により増加していくことが予想され、50人を目指す。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: SGH事業で海外研修に参加する生徒数により算出し、毎年20人を目指す。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	8人	8人	人	人	人	人	人	140人
目標設定の考え方: 国内の大学、企業と連携した取組への参加者数により算出し、高校1年生2年生全生徒の1/4を目指す。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	0校	校	校	校	校	校	3校
目標設定の考え方: 平成26年度において交流のある学校3校において、課題研究において連携することを目指す。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	14人	14人	人	人	人	人	人	340人
目標設定の考え方: 岡山大学大学院生のティーチングアシスタントや指導していただく大学教員の数により算出した。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	0人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: 連携先から参画予定の外部人材数により算出した。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	25人	20人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 全国高校生英語スピーチコンテスト、全国高校生英語ディベート大会、全国ディベート大会、全国高校模擬国連等への参加者数から算出した。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	0人	0人	人	人	人	人	人	3人
目標設定の考え方: 平成26年度においてははないが、3人を目指す。								
先進校としての研究発表回数								
h	2回	2回	回	回	回	回	回	5回
目標設定の考え方: 公開授業を含む教科研究大会、課題研究発表会、成果発表会の回数により算出した。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i		×						○
目標設定の考え方: SGH事業により整備することを予定している。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j		人						
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	1,200	1,200					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							